

中学校第3学年 国語科学習指導案

1 単元名

多角的に考える「合意を形成し、課題を解決する～企画会議をしよう～」(三省堂)

2 単元について

(1) 本単元は中学校学習指導要領第3学年A話すこと・聞くこと「エ 話合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと」の学習である。

生徒たちはこれまで、多数決で課題を解決する(選ぶ)話合いを多く経験している。本学習で目指すのは、対話によって合意を形成する(納得解や新たなアイデアを生み出す)話合いである。生徒の話す・聞く能力を生かしつつ、互いの考えのメリット・デメリットを明確にしたり、考えを多面的・多角的に分析したりして調整点を見出し、それぞれの考えの良さを生かす話合いの進め方を理解することで、将来にわたって活用できる「対話によって合意を形成する資質・能力」を育成することができる単元である。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。

小学校第6学年 (7月)	中学校第1学年 (11月)	中学校第2学年 (10月)	中学校第3学年 (10月) 本時
立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう～学級討論会をしよう～ 【話すこと・聞くことオ】	4 論理的に考える 論理で迫るか、感情に訴えるか～討論ゲーム～ 【話すこと・聞くことオ】	4 分析的に考える 異なる立場や考えを尊重して～パネルディスカッション～ 【話すこと・聞くことオ】	3 多角的に考える 合意を形成し、課題を解決する～企画会議～ 【話すこと・聞くことエ】

(3) 生徒の実態は次のとおりである。

- 平成29年度熊本県学力調査の結果から、国語科のすべての観点について県平均を上回っているものの、「話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること【話すこと・聞くことエ】の問題において課題が見られた。これは、日常生活の場で、話し方や聞き方を意識して聞いたり話したりする経験が不足しているからだと考えられる。
- 事前に行ったアンケート結果より、相手の立場に立って意見を聞いたり、根拠を示しながら自分の意見を言うことができると思う生徒が多い反面、話合いの際に、「ばらばらの意見をまとめるのが難しい」「同じ意見しか出ない」等、合意形成について課題を感じている生徒が半数以上いた。これは、合意形成を導き出す話合いの進め方を確実に習得できていないことが原因と考えられる。
- 自分の発言に自信がなく発表すること自体が負担である生徒や、自分の意見を持つことが困難な生徒がおり、個別の配慮が必要である。

(4) 指導に当たっては、次の事項に留意する。

- 研究の視点①②に基づき、次のような工夫を行う。

【研究の視点①】

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

単元構成を工夫し、話合いの進め方を意識させながら話し合わせたり、課題に応じた話合いの進め方を選ばせたりする活動を設定することで、お互いの考えについて根拠にこだわりながら検討させ、合意形成に対する考えを深めさせる。

【研究の視点②】

学びを実感する振り返りの工夫

「合意形成のためのスキル」「話し方・聞き方」「スキルを使う場面」にわけて振り返りを記録、授業を重ねるごとに合意を形成するための力がついていくと実感させる。

○配慮が必要な生徒に対しは、問いについて自分の意見を思考する場面において、考えを整理できるように教師が事前に聞き取りを行い、実際の意見を考える場面で個別指導が行えるようにしておく。振り返りの場面では、以前のワークシートを振り返ったり他の生徒の考えを参考にさせるなどしたりし、自分なりの考えを書けるように、教師が個別指導を行う。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	日常生活や、社会生活の中の課題を解決するための対話を通して、話し合いが効果的に展開するように解決に向けて互いの考えを生かし合う話し合いの進め方を理解し、合意形成のための話し合いができる。	
国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
①日常生活の中の話題に関心をもち、課題の解決に向けて積極的に話し合い、互いの意見や考えを生かそうようとしている。	②他の人の意見のよいところを指摘したり、調整の仕方を提案したりしながら、自分の意見を見直したり深めたりしている。(話・聞く) ③課題の解決に向けてより多くの発言を求めたり、意見の調整の仕方を提案したりするなど、話し合いの進め方を工夫して話し合っている。(話・聞く)	④建設的に話し合えるよう敬語など言葉遣いに注意している。(伝国イ(ア))

4 指導・評価の計画 (6時間取扱い 本時4/6)

中学校国語科3年「合意を形成し、課題を解決する～企画会議～」

単元を貫く問い：合意を形成するためには、どのような「話し合いの進め方」が効果的か。

次	時	学習活動	研究の視点	評価	
一	1	1 「単元を貫く問い」を知る。 2 相反する意見でも共通点を確認し議論の出発点とできることを学ぶ。(ベン図) 3 合意形成の考え方とよさを考える。	【研究の視点1】 「見方・考え方」に着目した問いの工夫	【関・意・態】①：観察 【話・聞】②：ワークシート	
	1	4 課題に対してメリット・デメリットを考え、客観的に互いの意見を判断しながら合意形成していくことを学ぶ。(投票法)		【関・意・態】①：観察 【話・聞】②③：ワークシート	
二	1	5 課題に対し、おかれているそれぞれの立場や先の結果を想像し互いの意見を検討し、合意を形成していくことを学ぶ。(チャート式)		【研究の視点2】 学びを実感する振り返りの工夫	
	1 本時	6 課題に対し、観点に沿って比較、分類しながら互いの意見を検討し、合意を形成していくことを学ぶ。(マトリックス表)			
三	1	7 合唱コンクールについて、これまでに学習した思考ツールを活用しながら話し合いを行う。			
	1	8 「単元を貫く問い」について振り返る。			【関・意・態】①：観察・記録シート 【言】③④：観察

5 本時の学習

(1) 目標

話し合いの話題や方向をとらえて的確に話したり、相手の発言を注意して聞いたりして、自分の考えと比較しながら合意形成していく力を高める。(話すこと・聞くこと エ)

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の主な留意点及び評価	備考
導入 10分	1 本時の学習目標を確認する。	○これまでの学習を振り返り、「選ぶ」話し合いではなく「合意を形成する」話し合いであることを確認しておく。	PC 電子黒板
	<p>[本時の学習目標] 複数の観点で比較分類しながら、合意形成することができる。</p>		
展開 30分	2 本時の問いについて話し合う。	能動学習 家庭学習等で、本時の問いについてあらかじめ自分の考えを持たせておき、能動的に学習活動が行われるようにする。	学習ファイル
	<p>[本時の問い] マイボトルの利用を勧めるためのポスターとして、最も優れているものを決めよう。</p>		
	(1) 自分なりの考えをもつ。	徹底指導 一人一人に自分の考えを持たせ、全員が発表できるようにするために、それぞれのポスターについての気づきを付箋に書かせ、全員が自分の考えを書けているか、確認する。	付箋
	(2) グループで考えを交流する。	○ファシリテーターやグラフィッカーなど、役割を分担させることで話し合いが活性化するようにする。	マトリクス表 ワークシート
	<p>【言語活動】 (設定の意図) 「ポスターを選ぶために話し合う」という比較的話し合いやすい話題を設定することで、生徒たちが話し方や聞き方、話し合い方を意識しながら話し合うことができるようにする。</p>	【研究の視点1】 思考ツール(マトリクス表)を用いて話し合わせることで、複数の観点で比較分類しながら合意を形成する話し合いの進め方の良さを実感させることができる。	
	(3) グループで出た結論を全体に紹介する。	○グループの代表者に発表させる。それぞれのポスターをどのように評価し、どのようなプロセスで合意を形成にしたのかを明確にして発表させる。	発表用紙
まとめ 10分	3 学習したことを振り返る。	【研究の視点2】 学んだことをワークシートに加筆し、次時のクラス全体の話し合いに生かせるようにする。	ワークシート
	(1) [本時の問い]に対する分かったこと気付いたことをグループで伝え合う。	<p>評価：思考・判断・表現(ワークシート) B基準 合意形成のために用いた、マトリクス表の縦軸・横軸のいずれかの視点にふれながら述べている。</p>	
	(2) [本時の問い]に対し、個人で考える。		
	(3) [本時の学習目標]について自己評価する。	<p>A基準 合意形成のために用いた、マトリクス表の縦軸・横軸の両方の視点にふれながら、比較・分類しながら述べている。 (B基準に達していない児童(生徒)への手だて) ○以前のワークシートや主張カードや他の生徒の考えを参考にさせるなどし、自分なりの考えを言えるようにする。</p>	